

教科	農業	科目	総合実習 I	単位数	4 単位	学年	3 年	コース	アグリ
使用教科書	なし			使用副教材等	実習記録簿				

目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	農業に関する総合的な問題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	・実習状況の観察(実習内容を理解し、行動に移すことができているか) ・実習記録簿(実習で学んだ知識・技術について記述できているか)	・実習状況の観察(実習内での自身の役割を把握し、的確に判断できているか) ・実習記録簿(自分なりの考察について適切に表現できているか)	・実習状況の観察(主体的・協働的に取り組みができているか) ・実習記録簿(実習内容の振り返りや反省ができ、今後の実習に向けた改善策が記述できているか)

担当者からのメッセージ	・受講にあたっては、規定の実習服・長靴を着用する、また加工実習の際は、規定の加工服・専用長靴を着用すること。服装一式を忘れた場合、その実習への参加は認めない(後日補習)。 ・作業開始までに、必ず爪を切っておくこと。髪が肩にかかる生徒はゴムでまとめること。 ・毎実習後は、必ず実習記録簿を記入し提出すること。
-------------	---

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準
1 学期	4	オリエンテーション ・総合実習の取り組み方、実習記録簿の記入の仕方、評価の方法について理解する。	※(知)知識・技能、(思)思考・判断・表現、(態)主体的に学習に取り組む態度
	4 7	3班編成(作物・豚・牛)とし、作物については概ね1学期間を連続して担当し習熟を図る。豚・牛については、週交代とする。 【作物部門】主にスイートコーンを題材とし、作物栽培における、基本的な作業(畑づくり・除草・施肥・管理など)に体験学習を通じて習熟を図る。 【畜産部門】豚では、分娩～出荷までの肉用豚飼育に一貫して取り組み、その過程で必要な飼養管理作業に体験学習を通じて習熟を図る。 牛では、酪農経営に一貫して取り組み、その過程で必要な飼養管理作業に体験学習を通じて習熟を図る。	・総合実習を学ぶ目的を理解できているか。(知) ・実習のおおまかな流れについて理解できているか。(知) ・基礎基本的な農機具の名称と使用方法を理解し、実際に使用することができているか。(知) ・作物・畜産部門それぞれの目標達成に必要な基礎的知識・技術について理解し、基本的な一連の作業を行うことができているか。(知) ・実習ごとにおける自らの役割を把握でき、行動することができているか。(思) ・実習記録簿に、当日の作業内容を正確に記録することができているか。(思) ・仲間との協働・協力を積極的に図ろうとできているか。(態)
2 学期	9 12	【作物部門】主にハクサイを題材とし、作物栽培における、基本的な作業(畑づくり・除草・施肥・管理など)に体験学習を通じて習熟を図る。 また、収穫したハクサイの販売実習を行い、社会性(コミュニケーション能力)を養う。 【畜産部門】豚では、分娩～出荷までの肉用豚飼育に一貫して取り組み、その過程で必要な飼養管理作業に体験学習を通じて習熟を図る。 牛では、酪農経営に一貫して取り組み、その過程で必要な飼養管理作業に体験学習を通じて習熟を図る。 また、肉加工実習とその販売実習を行い、社会性(コミュニケーション能力)を養う。	・総合実習を学ぶ目的を理解できているか。(知) ・実習のおおまかな流れについて理解できているか。(知) ・基礎基本的な農機具の名称と使用方法を理解し、実際に使用することができているか。(知) ・作物・畜産部門それぞれの目標達成に必要な基礎的知識・技術について理解し、基本的な一連の作業を行うことができているか。(知) ・実習ごとにおける自らの役割を把握でき、行動することができているか。(思) ・実習記録簿に、当日の作業内容を正確に記録することができているか。(思) ・仲間との協働・協力を積極的に図ろうとできているか。(態)
3 学期	1 2	【作物部門】主に各種葉物野菜を題材とし施設栽培を中心に、作物栽培における、基本的な作業(畑づくり・除草・施肥・管理など)に体験学習を通じて習熟を図る。 【畜産部門】豚では、分娩～出荷までの肉用豚飼育に一貫して取り組み、その過程で必要な飼養管理作業に体験学習を通じて習熟を図る。 牛では、酪農経営に一貫して取り組み、その過程で必要な飼養管理作業に体験学習を通じて習熟を図る。 また、肉加工実習とその販売実習を行い、社会性(コミュニケーション能力)を養う。	・総合実習を学ぶ目的を理解できているか。(知) ・実習のおおまかな流れについて理解できているか。(知) ・基礎基本的な農機具の名称と使用方法を理解し、実際に使用することができているか。(知) ・作物・畜産部門それぞれの目標達成に必要な基礎的知識・技術について理解し、基本的な一連の作業を行うことができているか。(知) ・実習ごとにおける自らの役割を把握でき、行動することができているか。(思) ・実習記録簿に、当日の作業内容を正確に記録することができているか。(思) ・仲間との協働・協力を積極的に図ろうとできているか。(態)